

研究課題名	大腿骨近位部骨折における術後 8 日目以降の転倒・転落の実態と危険因子の後方視的検討
試料・情報の利用目的・利用方法（他機関へ提供する場合その方法）	大腿骨近位部骨折（太ももの付け根の骨折）は、高齢の方に多い骨折で、手術後もしばらくは転びやすい状態が続くことが知られています。特に手術後の入院中は、痛みや筋力低下に加えて、慣れない病院生活や体力の低下などの影響により、転倒や転落が起こることがあります。私たちはこれまでの研究で、手術後早い時期（術後 7 日目まで）に転倒する方が多いことを確認しました。一方で、術後 8 日目以降にも一定数の患者さんが転倒しており、その背景には歩けるようになって活動量が増えることや、体の回復と認知機能の状態との関係が影響している可能性が考えられています。 しかし、手術後 1 週間を過ぎた時期に、どのような患者さんが転倒しやすいのかについて詳しく調べた研究は、これまであまり行われていません。そこで本研究では、大腿骨近位部骨折の手術を受けた患者さんを対象に、手術後 8 日目以降の入院中の転倒について調査します。診療録（カルテ）に記録されている情報をもとに、認知機能の状態、歩く能力、握力、移動方法などと転倒との関係を調べ、どのような方が転倒しやすいのかを明らかにすることを目的としています。この研究によって、転倒しやすい患者さんを早い段階で見つけ、患者さん一人ひとりに合わせた転倒予防につなげることが期待されます。また、再び骨折してしまうことを防ぐための支援にも役立つと考えています
研究対象者	2020 年 1 月から 2026 年 3 月の間にベルランド総合病院整形外科に大腿骨近位部骨折を受傷して入院し、手術治療を受けたかた
利用又は提供する試料・情報の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 術後の転倒転落の実態 ①発生の有無（手術後の入院中に転倒や転落をした） ②発生の状況（時期；術後何日目、場所：病室、トイレ、廊下など、時間帯：何時） 入院中に得られる情報 ①年齢、性別、BMI（身長と体重で算出される。やせや太り気味などが分かる） ②骨折の種類（どの部分が骨折したのか） ③術式（どのような手術をしたのか） ④骨折前の所在（骨折前に住んでいた場所） ⑤骨折前の歩行状態（骨折前にどのような歩行補助具を使用して歩いていたか） ⑥認知機能（記憶力や思考力がどの程度か） ⑦バランス（どのくらいバランス感覚があるか） ⑧握力（筋力がどのくらいあるか） ⑨手術から 7 日目の移動方法（病棟内の移動は歩いていたのか、車椅子だったのか）
研究予定期間	機関の長の実施許可日 ～ 2026 年 8 月 31 日
試料・情報の取得方法	通常診療の過程で得られます
試料・情報を利用する者の範囲	この研究はベルランド総合病院 FLS 推進室のみで行います
試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は機関の名称	ベルランド総合病院 クオリティ管理センター FLS 推進室 田中暢一
研究に協力したくない場合	研究への試料・情報の利用についてご同意いただけない場合は 2026 年 8 月 15 日までに下記お問い合わせ先までお申し出ください。不同意の場合でも診療に不利益になることはありません
利益相反について	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問合せ先	ベルランド総合病院 クオリティ管理センター FLS 推進室 田中 暢一 メールアドレス：nob_tanaka@seichokai.or.jp

	〒599-8247 堺市中区東山 500-3	TEL : 072-234-2001 (代)
--	------------------------	------------------------